

SRID 活動報告

SRID キャリア開発事業の活動報告

小久保和代
委員長
キャリア開発事業運営委員会

「SRID キャリア開発事業」は、2016年に国際開発協力への貢献を目的に設立された比較的新しい事業ですが、「懇談会・サロン活動」、「SRID ジャーナル」とともに現在ではSRID活動の3本柱の一つとなっています。

国際協力分野の人材養成として、具体的には、1) キャリア開発塾、2) プロフェッショナル能力開発・向上研修、3) キャリア開発カウンセリング、4) 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携等の活動があり、SRID会員が有する知識と経験を若い世代へ引き継ぐ活動を行っています。

キャリア開発事業の活動の例として、国際機関に就職するためのカウンセリングと途上国の開発に携わるために転職する際のヒントを以下にご紹介します。

【キャリアカウンセリングの一例】

講師 佐藤 桂子

SRIDのキャリア開発事業にはいくつかのパターンがあります。一つはSRIDへ直接キャリアカウンセリングや出張講座を申し込んだ人に答えて適任と考えられる会員がお会いして話をする、また講座を実施するというSRID会員の特徴を生かした事業。他は個人的なつながりから依頼を受け講義を行う、或いはカウンセリングや相談に乗る方法。その他にも大学や開発機関などから頼まれてセミナーを行うこともあります。

私が行ったセミナーや講義、カウンセリングは殆ど2番目と3番目の形のもので、多くは以前勤めていた世界銀行からの依頼で、特にベトナム在住で仕事をしていたことから、ベトナムでの世銀の活動状況や開発援助の状況を日本からの大学生に講義する案件が主でした。

ベトナムは開発途上国の中でも素晴らしい発展を遂げている国ですので、日本からの注目度も高く、夏休みを利用してベトナムでの開発状況を研究したいという学生のグループや、ボランティア活動をベトナムで行いながら開発に



ハノイで行った大学生への講義

将来取り組みたいと、活動の合間に講義を聞きにくる学生達もいました。それぞれ日本企業や JICA、アジ銀などへヒアリングに行き、日本企業からのベトナム戦略などを踏まえて世銀の取り組みなどを考慮し、レポートにまとめて所属のゼミへ提出している様子でした。

多くの学生が卒業後何らかの形で開発に関わりたいということで、就職活動についての質問なども数多くありましたが、もっと具体的に世銀の **result framework** の作り方を学びたいというような依頼もありました。また博士課程で研究している途上国の幼年教育に世銀がどう取り組んでいるか、というような個別の質問にお答えするために、一対一でお会いして世銀の話をさせていただくこともあります。

さらに元の同僚などからの依頼で、世銀やアジ銀に興味のある大学院生と話をする機会もあります。以前アジ銀で一緒に仕事をした日本人インターンの女性に頼まれて、彼女の同級生達に開発に関わる仕事、今後の進路などの相談を渋谷の喫茶店でコーヒーを飲みながら行ったこともあります。彼らは皆大卒後日本で就職をした後、一念発起して海外の大学院に留学。開発援助を次の仕事として射程に入れ、修論を書きながら就職活動をしており、日本の援助や NGO の取り組みなどに対して活発な議論になったことを覚えています。

私の経験は非常に限られたものですが、今の大学生・院生が真摯に今後の途上国開発を考え、積極的に取り組んでいこうという姿勢が見られ、大変頼もしく思いました。

【転職活動へのヒント】

講師 小林 文彦

私は 2017 年から現在まで SRID キャリア開発塾講師として、自身の国際金融公社 (International Finance Corporation - IFC) への転職とその後のサバイバル、そして、IFC で採用側にたった経験などをもとに、国際開発金融機関を目指す 10 人前後の方々にキャリアカウンセリングを行いました。それらの方々の中で何人かは実際に転職を成し遂げられ、また、何人かは SRID の活動に共感して会員になって頂きました。本稿では、私のキャリアカウンセリングのベースとなっている IFC への転職対策について簡単に説明したいと思います。

1. 求められる職種

IFC に限らず国際機関への転職で重要なのは、求められている職種に見合う専門知識や経験を持っているかです。IFC で求められている職種には **Investment Services** と

Corporation Support の二つの分野があります。Investment Services には、Investment Officer, Investment Analyst, Industry Specialist などがあります。Investment Officer は修士以上で銀行の基幹営業職の様なもの。Investment Analyst は学部卒で数年の実務経験を持った人が対象で、基本的に 2 年限定。Industry Specialist は特定 Industry の技術者で Project の目利きができる人です。Corporate Support とは管理部門であり、一般の企業と同じく様々な職種の人材が必要とされています。当然事務職もあります。現在の自分の qualification に合致した職種で入社し、数年後に本当に希望する職種に内部で移動するというルートを目指す人たちもいます。

2. 採用プログラム

採用情報は IFC のホームページでリアルタイムにチェックできます。Young Professional Program (YPP)は定期採用としてよく知られていますが非常に狭き門です。まずは自分がやりたい仕事の分野の IFC 職員に Networking で食い込み、採用が公募された時に応募するのが有効です。他には、日本人職員を増やすことを目的に毎年春に日本に来る世界銀行・IFC リクルートミッション募集というのがあります。JPO もあります。しかし、最終的な採用決定は配属部署に委ねられるので、国籍が関係しない個人の実力が決め手になります。

3. 適性

私が理解している IFC で求められている人の適性です。

- 求められる専門知識と経験
- 途上国の知識と経験
- 多国籍・多文化環境でチームで働く力
- 自分で考えて行動する力とリーダーシップ
- 途上国開発へのパッション

例えば Investment Officer 採用の場合、現在金融機関で途上国のプロジェクトファイナンスを担当されている方は最初の 2 つの要件を Clear しています。今これらの要件を満たしていない方でも、自分のキャリアパスを考えて要件を満たしていけば良いわけです。これらの適性を作り上げ、それを示す魅力的な CV を作る必要があります。CV や Cover letter や Application note の書き方には技術が必要です。日本では、これらの訓練を全く受けていない人が多いので、少なくともこの分野の指南書から勉強する必要があります。しかし、私のキャリアカウンセリングでは CV の添削は行わず、総括的なコメントに留めて、各自の自発的な努力を促しています。

4. 私が心がけてきたこと

国際機関への転職は容易ではありませんが、転職後のサバイバルも大変なのは事実で

す。そこで私が常にこころがけてきたことの中で三つ紹介します。

(1) 目標を設定してアクションプランを作り、日々ベストを尽くす。=>やり抜く力
当たり前のことですが、できている人は少ないです。目標を持って、お金や時間を使
って行動し、色々なリソースを利用して情報を集める。そしてアクションプラン
を作り、日々ベストを尽くしてやり抜いていけば目標達成に近づきます。

(2) 機会は容易にパスしていくので常に探し求めて捕まえる。

機会とは **Opportunity** のことです。 **Opportunity** は常に私達の周りにあります。し
かし、何もしなければ容易に通過ぎていきます。よって、常に探して捕まえる努
力が必要です。

(3) 異文化・多国籍環境で通じるコミュニケーション力でチームワークにより業務遂
行。

日本人は以心伝心や空気を読むことを重要視して会議での発言は控えめで、まず人
の話の聞くことに重点を置きます。また英語の書類を書いても論理的で簡潔に相手
に自分の意見が伝わる文章を書く技術を習得している人は少ないです。残念ながら
これでは異文化・多国籍環境では **Nobody** となってしまいます。

開発途上国への支援という仕事は、途上国のみに恩恵を与える業務ではなく、世界の平
和と安定に貢献するものでもあり、また、実際に業務に従事する者としては自身の夢を
実現する場でもあります。

本年はオンラインでの活動も可能であったにもかかわらず、**COVID-19** による活動の制
限が影響したためか、講座やセミナーの開設やカウンセリングの機会が少ない年でした。

SRID キャリア開発事業の講師は、次世代を担う若い世代がその持てる力を最大限に発
揮できるよう支援することを願い、会員の積極的な参加をお待ちしています。